

定時制課程記念碑 双つの月

『双つの月』は定時制課程そのものを象徴する事に加え、先生、生徒、関係する方々の関係性を表す事を目指し丁寧にデザイン制作を行いました。

黒色の双つの石柱（アンゴラブラック）が師弟関係や友人関係を象徴し、その暖かみを示す乳黄色の石材（イエローオニキス）を挟み込む構造になっています。アンゴラブラックの重厚な表情は、定時制課程を象徴する夜空を景色として表すと同時にその学びの厳しさを象徴します。

イエローオニキス材の中央には暖かみと月の光を重ねてイメージした“輝き”そのものを閉じ込め、同時にその輝きを放ち続ける事が出来る様に高透過ガラスの塊を設置しました。ガラス部分は前後双つの塊から成り、それぞれに開校と閉課程当日の月齢をデザインした刻印を施しました。両日の月が重なって見える事で歴史を“奥行き”として直接的に観る事が出来ます。イエローオニキスの天端材は薄く加工することで柔らかく光を透過し、両日の月とその間の月日に輝きを加えています。中央部に視線が誘導される構成にする事で単に傍観する為の物としてではなく、観者が能動的に観入ることができるモニュメントになりました。在る程度の距離や角度をとった位置からも月の刻印と輝きが見える様に工夫を施してあります。

タイトルはその両日を同価値のものとして示す事と、月が並び立つ構造が“朋”と同じ構造である事を併せてイメージし「二つ」では無く「双つ」という表記を用い『双つの月』としました。併せて開校と閉課程の年月日を刻印しています。

モニュメントは観る人との関わりに依り価値を与えられるものです。

『双つの月』は定時制課程の歴史と想いを視覚的に追体験しイメージする“事”を目的としたモニュメントとして制作しました。

過去を想う事は現在を見据える事であり、それは未来を望む事につながります。過日と共に在りながらこれからに向けたイメージを生み出すためのものとしてこのモニュメントを育てて頂きたいと願っています。

製作デザイナー：木方立樹

制作協力：関ヶ原アトリエ株式会社